

CRT スタジオで収録

関係は本質に先立つ

—よい関係づくりの第一歩はエポケー(こちらの思考停止)！—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：開倫塾の教育目標の「高い国際理解」とは何ですか。

A：「多様な集団で交流する能力」です。

(1)①現代は「人や、もの、お金が、国境を越え激しく動く、グローバル化社会」です。

②「グローバル社会」で求められるのは、「高い国際理解」つまり、「多様な集団で交流する能力」です。

③「多様な集団」とは何か。「性、年齢、健康状態、国や地域、歴史、言語、宗教、民族、文化、行動様式、思考様式、価値観などが異なる多様な人々が、個人として、集団として交流することが求められる集団」です。

(2)「多様な集団で交流する」とは何か。

①「人間関係を築き、うまくやること」

②「紛争に至らないこと」

③「紛争の状態にある場合には、うまく収めること」

④「さらには、紛争を予防し、平和な状態を構築すること」

Q：そのためにはどうしたらいいですか。

A：(1)①「相手の存在を、あるがままに認識すること」が第一。

②「よい関係をつくること」を第一優先順位とすることです。

③そのためには、「関係は本質に先立つ」「本質的な違い」はさておき、まずは「よい関係をつくること」に励むことです。

Q：では、どのように、「相手とのよい関係」をつくれればよいのかのですか。

A：(1)あるテーマについて話し合いをする場合に、自分の考えを述べないで、まずは、相手の考えを十分に聞くことです。

(2)相手が述べたことについて、その直後に自分の考えを述べない。相手のいっていることを、そのまま繰り返す。更に、「～さんは、～とお考えなのですね」と付加疑問文で確認する。

(3)①たとえば、好きな食べ物について話し合うとします。

②「～さんの好きな食べ物は何ですか」と質問し、～さんが「私はカレーライスが好きです」と答えたとします。

③自分はオムライスが好きな場合にも、その直後に、「私はオムライスが好きです」とい

わない。

- ④「～さんは、カレーライスが好きなのですね」と、～さんが言ったことをていねいに繰り返し、最後に「～なのですね」と付加疑問文として確認する。

(4)①その後、「～さんはなぜカレーライスが好きなのですか」と追加の質問をする。

- ②「おいしくて、おなかがいっぱいになるからです」と～さんが答えたら、「～さんは、おいしくておなかがいっぱいになるからカレーライスが好きなのですね」と、～さんの発言をそのまま再現し、付加疑問文で確認する。

- ③「自分は、オムライスが好きです」ということを、まだ述べない。

(5)この後も、

- ①「～さんは、どんな種類のカレーライスが好きなのですか」

- ②「～さんは、どこお店のカレーライスが好きなのですか」

などと追加の質問をする。

- ③「野菜カレーが好きです」と答えたら、「～さんは、野菜カレーが好きなのですね」と付加疑問文で確認。

- ④「～というお店のカレーライスが好きです」と答えたら、「～さんは～というお店のカレーライスが好きなのですね」と付加疑問文で確認。

(6)①～さんへの質問がほぼ終わり、～さんのことがよく分かったら、

- ②「実は、私は、オムライスが好きなのです。その理由は～」と自分の好きな食べ物や、その理由を述べ、

- ③～さんに理解していただく。

(7)①～さんが、「私はカレーライスが好きです」と述べた直後に、「私はオムライスが好きです」と自分の好きな者やその理由を述べたらどうなるか。

- ②～さんの好きな食べ物と、自分の好きな食べ物が、初めからぶつかり合ってしまうので、関係を築くのが難しくなる。紛争の原因になることもある。

- ③「まずは、～さんの好きな食べ物やその理由などをお聞きして、理解を深める」。次に、順次、「自分の好きな食べものを紹介」し、「お互いの違いを認識」、「相互り合いを深める」。

(8)この「多様な集団で交流する」と直ぐに役に立つ「エポケー実習」は、「関係は本質に先立つ」という命題と共に、渡辺先生が考案し、外務省や JAICA、海外に進出する企業、外国人を受け入れる企業などで数多く取り入れられています。

(9)この「エポケー演習」は、「塾生」「保護者」などの個別面談の際、お役にたちます。保護者が子どもと話し合うときや、上司が部下と話し合うときにも役立ちます。更には、人と人が出会う様々な場面で役立ちます。ご活用ください。是非、今日から、「ご活用」ください。

(2026年7月8日記)